

令和2年度(2020年度) 熊本県教育功労(優秀教職員)表彰受賞者功績概要

令和2年(2020年)12月1日

【教職員】 マスター部門(49歳以上)

No.	学校名 氏名	功績の概要
1	宇城市立小川小学校 井手田 佳壽子	<p>●校内研究を通じた学校全体の授業改善の取組</p> <p>児童が主体的に課題を見つけ、意見を出し合い、お互いを認め合う授業づくりができており、若手の育成のため、授業公開等を積極的に実施している。研究主任として、全教職員が研究授業を実施できるよう調整し、全員による事前研究会・模擬授業の実施、ワークショップ形式での事後研究会などの取組を進め、学校の研究をまとめた論文は宇城地区で入選を果たしている。また熊本県「性教育の手引き」の作成にも携わり、県教育委員会「健康教育担当者研修会」でのシンポジストや宇城教育事務所の教育誌で「ベテラン教師の実践に学ぶ」として紹介されるなど、多方面で活躍している。</p>
2	菊池市立泗水小学校 北村 信孝	<p>●校内研修推進及び算数教育に優れた指導力</p> <p>算数研究に長年取り組み、授業力及び学級担任としての経営能力に優れている。令和元年度から2年間、国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業において、研究主任としてその推進を牽引した。数学的に考える資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実現させる授業づくりを目指し、理論と実践の両面において中心的存在である。また、チームティーチング指導員として複数学級の授業に入り、若手教職員の授業力育成にも力を発揮している。</p>
3	水俣市立水俣第一小学校 高橋 圭子	<p>●「熊本の学び」の実現に向けた先行的な研究及び実践</p> <p>平成30年度から2年間、県教育委員会指定「熊本の学び」研究指定校事業の研究主任として優れたリーダーシップを発揮し、国語科を軸とした教科等横断的な取組の在り方を明確にし、改善と充実の好循環を生みだすカリキュラム・マネジメントの推進に尽力した。研究発表会では、重点的に取り組む身に付けさせたい3つの資質・能力や学習構想案、グランドデザイン等の研究成果を公開し、高い評価を受けた。また、冊子『熊本の学び推進プラン』に参考例として掲載されるとともに、研究指定校事業の終了後も校内で共通理解と共通実践を続けている。</p>
4	上天草市立龍ヶ岳小学校 田崎 美抄	<p>●健康教育、食育に優れた指導力</p> <p>熊本県栄養教諭・学校栄養職員研究会理事長や副理事長を務め、各種研修会の講師や実践発表により熊本県下で指導的役割を果たしている。上天草市の栄養教諭のために自主研修会を主催し、若手栄養教諭の育成にも尽力している。また、家庭科や保健の授業にも携わり、就学時健康診断では「親の学びプログラム食育編」で講話を行っており、食の専門家や地域人材を活用した食に関する指導や啓発にも力を入れている。ICTを活用した食に関する指導にも取り組んでおり、食育動画の作成や公開をしたり、給食時間にテレビ会議システムにより他校と交流を図ったりしている。</p>
5	御船町立御船中学校 荒牧 浩一	<p>●数学科、部活動指導における優れた指導力</p> <p>数学科教員として、上益城郡教科等研究会数学科部の理事長を5年間務め、中学校数学科県大会において公開授業を2回行っている。生徒がわかる・楽しい授業づくりを志向した指導方法の工夫・改善に意欲的に取り組み、県内数学科担当教員の教科指導力の向上にも貢献している。また、陸上部顧問として、熱心に指導に取り組み、県駅伝競走大会へ13回出場に導き、郡市対抗駅伝大会の監督を6年間務めるなど、生徒の体力・競技力向上に大きな役割を果たしている。</p>
6	八代市立第八中学校 澤村 淳子	<p>●英語教育に優れた指導力</p> <p>英語科指導に対する実践的指導力が高く、グローバル人材に求められる英語力の育成の視点から常に指導方法や授業を改善し、3年間を見通した系統的・継続的な指導には定評がある。全国学力調査や県学力調査では全国・県平均を大きく上回り、県英語暗唱大会では、平成28年度から連続上位に入賞するなど顕著な成果をあげている。令和元年度には、八代市教育委員会の英語技能検定活用による授業改善の実施校に選ばれ、英語技能検定において優れた結果を出し、管内中学校英語教員に対して授業づくり及び指導方法等について実践を発表するなど、英語力向上及び英語教員の指導改善に貢献した。</p>

No.	学校名 氏名	功績の概要
7	熊本県立大津高等学校 松岡 弘一	<p>●学年主任としての進路指導に優れた指導力 学年主任として生徒の意欲の喚起、学年を指導する教員の意識改革等、リーダーとしての力量が高く、郡部の学校から高い水準の大学進学実績をあげ続けている。3年間を見通した学習指導や生徒指導に心がけ、生徒の性格や希望を把握し、対話を欠かさず指導した結果、前々任校では過去最高の国公立大学への合格者を指導し、前任校では、京都大学、大阪大学など難関国公立大学への合格者を多数指導している。本校では44年ぶりとなる熊本大学医学部への現役合格者をはじめ同大学の薬学部、理学部、教育学部等への合格者の指導にあたった。</p>
8	熊本県立八代高等学校 高木 慎二	<p>●スーパーティーチャー(外国語・英語)としての優れた指導力 英語教諭として指導法の研鑽に励み、その研究や実践の成果を様々な研究会や研修会で発表し、教職員の指導力向上に努めてきた。平成28年度にスーパーティーチャーに任命されてから、他校に出向いたり各種研修会に参加して授業実践や指導法、考査作問など多岐にわたり指導助言を行っている。また進路指導の分野でも、特に進学指導に力を入れ、生徒の能力を最大限に引き出す様々な仕掛けを考案し、勤務校における進学実績の向上に成果をあげている。</p>
9	熊本県立大津支援学校 財満 昭彦	<p>●ICT機器を活用した校務の効率化 特別支援学校等において、ICT機器の活用に取り組み実績を積み重ねてきた。聴覚障がいがある児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図るためにテレビ会議システムの導入や知的障がいがある児童生徒の運動能力を客観的に把握するために体カテストのデータベースの作成・活用、職業訓練の状況を数値化し、職業選択に生かす取組など、業務改善と指導・支援の充実に寄与した。本校では校内ネットワークシステムを構築し、学習指導案などの情報の一元管理や児童生徒がタブレット端末などのICT機器を活用できるよう、研修や実践集の作成に努めた。</p>

【教職員】フレッシュ・キャリア部門(48歳以下)

No.	学校名 氏名	功績の概要
1	宇城市立豊福小学校 舩田 真一	●学校体育及び部活動(ハンドボール)において優れた指導力 宇城小学校体育研究会に所属し、児童が運動の楽しさと喜びを体感する体育の授業づくりに努めてきた。特にハンドボールの授業実践は、令和元年に熊本で開催された世界ハンドボール大会への関心を高めることにつながった。また、宇城小学校体育連盟理事長を3年間務め、主催事業の企画・運営にリーダーシップを発揮した。部活動指導では、ハンドボールを通して児童の「生きる力」をはぐくみ、生涯にわたる人間形成の基礎を培うという信念のもと、その指導力を発揮した。平成17年には、全国小学生ハンドボール大会で優勝するなどの実績を残している。
2	大津町立大津小学校 田中 香織	●新教科「生活数理」の開発を中心に優れた学習指導力 文部科学省研究開発学校の研究指定を受け、算数科の学習を発展させ教科横断的な新教科である「生活数理」のカリキュラム開発に取り組み、中央教育審議会教育課程部会において、研究成果を報告している。日々の授業では、児童が自らの考えをもち、互いの考えを聴き合う集団づくりを行っており、主体的・対話的で深い学びを実現している。平成30年度から2年間、県教育委員会の委嘱を受け、「熊本の学び」総合構想会議に参加するとともに、本年度は「熊本の学び」推進プランについて、校内研修等を通して普及啓発に取り組んでいる。
3	西原村立山西小学校 中島 美鈴	●授業マイスター(道徳教育)としての優れた指導力 県教育委員会作成の「熊本地震関連教材『つなぐ～熊本の明日へ～』」作成委員として、低学年用教材開発に関わった。その後も活用事例集作成委員として、道徳用教材の活用方法を県下に広めている。平成30年度には、これまでの道徳教育への取組により授業マイスターに認定されており、阿蘇管内をはじめ県下で公開授業や授業録画の公開により道徳科における授業づくりの提案を行っている。
4	甲佐町立龍野小学校 藤田 沙織	●国語科指導に優れた指導力 国語科を中心に教科指導に取り組み、児童の学習意欲を高め、主体的に考え学び合う授業づくりの推進に努めている。児童一人一人を大切にしたい分かる授業を心がけていることで、意欲的で落ち着いた学級経営につながっており、「教師としての力量を高めたい」と自己研鑽に努め学び続ける姿は、若手教職員の手本となっている。平成30年度にはICTを活用した「未来の学校」創造プロジェクトの研究主任を務め、現在も研究主任として学校全体での「熊本の学び」を推進し、学力向上に努めている。
5	八代市立松高小学校 永松 由紀子	●国語科を中心とした優れた指導力及び研究主任としての企画運営力 国語科を中心に主体的・対話的な学びにつながるよう授業展開を工夫し、児童が互いに教え合い、学び合う授業を実践している。また、八代市における小学校国語教育の中心的役割を担っており、八代教育事務所の「学力向上プロジェクト小学校部会」のメンバーとして研究に取り組み、公開授業により成果を広めた。研究主任として、リーダーシップを発揮し、職員の授業改革や指導力向上のための支援を行うことで学校全体の授業改善につなげており、学力の向上に大きく貢献している。
6	津奈木町立津奈木小学校 倉岡 和彦	●保健体育の優れた研究及び実践 保健体育の指導において、小学校のみならず中学校の経験も生かして、子ども一人一人が生き生きと活動し、楽しいと感じる授業を目指して、専門性と指導力を発揮してきた。これまでに『熊本県小学校体育指導の手引き』作成委員や小学校体育指導力向上研修会の講師も務めている。また、十数年にわたり、水俣市及び葦北郡の小学校体育連盟理事長や小学校体育研究会理事長を務め、芦北水俣管内児童の体力向上や教職員の指導力向上に寄与してきた。さらに、若手教職員の育成のため、全般にわたって指導・助言を行っている。
7	あさぎり町立免田小学校 黒木 靖子	●校内研修推進に優れた指導力 平成27年度から2年間文部科学省指定スーパー食育スクール事業、県教育委員会指定の「学校給食・食育研究推進校」、さらに平成29年度から3年間文部科学省指定「教育課程特例校(英語教育)」の取組において、研究主任として、研究の計画・立案・実践・評価をマネジメントし、校内及び町内の研究の推進に大いに貢献した。また、県教育委員会主催の英語教育担当者指導法研修会の代表授業者を務め、研究指定事業の終了後も英語教育の指導方法の研究に努めており、球磨管内における英語教育の指導力向上にも寄与している。

No.	学校名 氏名	功績の概要
8	上天草市立姫戸小学校 尾上 忠宜	<p>●国語教育を中心に優れた指導力</p> <p>学力充実の核となる教務主任として、学校全体の学力の実態把握とそれに基づく詳細な課題の洗い出しを行い、PDCA検証改善サイクルの構築と授業実践の工夫・改善に大きく寄与した。特に、研究主任や特別支援コーディネーターとの密な連携により、校内の学習支援体制や個別指導が充実し、昨年度の県学力調査では、全学年が全教科で県平均を大きく上回った。また、市内の国語教育でもリーダーシップを発揮し、若手教職員の授業力向上のために研修会等の企画・運営にも携わっている。</p>
9	長洲町立腹栄中学校 三宅 伸明	<p>●特別活動及び部活動に優れた指導力</p> <p>生徒会を担当しており、生徒のやる気を引き出すため、生徒がアイデアを出し、主体的に活動していくように指導しており、生徒が生き生きと活動する校風の醸成につながった。生徒集会での劇を交えた問題提起や朝のあいさつ運動で横断歩道で止まった車にプラカードを手に丁寧なお礼を言うなどの取組が地域貢献にもつながっている。また、部活動の指導にも優れ、技能の向上はもとより、生徒の部活動に取り組むうえで葛藤や悩みを部活動ノートの交換を通して把握し、丁寧な指導をすることで、地区の総合体育大会で優勝を果たしている。</p>
10	山鹿市立鹿北中学校 西浦 伸一	<p>●部活動(ハンドボール)に優れた指導力</p> <p>長年、ハンドボールの指導を通して、生徒の健全育成に取り組み、一つの学校にとどまらず県全体の生徒の育成に尽力している。また、ハンドボールに限らず部活動全体の活性化に取り組み、生徒・教職員の意識を変革し、学校全体の活性化を成し遂げている。特に本校での実践は、小規模校ということであきらめかけていた生徒に、自信とプライドを持たせ、創部4年目で県中体連大会で3位になるなど、心身両面での成長した姿を示すことができた。また、令和元年度には、県内中学校で唯一の体力向上優秀実践校表彰を受けるまでにレベルアップさせている。</p>
11	菊池市立泗水中学校 松永 武	<p>●教務主任としての業務の効率化と優れたリーダーシップ</p> <p>教務主任として、数週間先を見越しながらの週時程の編成を通して、教育課程の適切な管理とともに各職員の計画的な職務遂行の推進に貢献している。自らの音楽科授業における優れた指導力に加え、教科指導や生徒指導・道徳教育・人権教育等の各分野において、同僚に積極的に関わりながら自身の知識や経験をもとにした的確な支援や助言等を行うとともに、保護者や地域との連携を図るなど、高いリーダーシップを発揮し、学校総体としての教育力の向上に貢献している。</p>
12	南阿蘇村立南阿蘇中学校 古賀 元博	<p>●学校防災教育を中心とした優れた指導力</p> <p>熊本地震発生後すぐに、県教育委員会指定「学校安全教育」の研究主任として培った防災教育の知識を活かし、南阿蘇村行政・その他関係機関等と連携を図りながら、将来の南阿蘇村を担う人材育成を目指し、防災教育に取り組んだ。全教科で行う防災学習基礎講座、地域の特性を考えた防災学習、避難所運営学習などは、多くのマスコミにより紹介されている。また、震災後における生徒の心のケアにも熱心に取り組む中、技術科教師として情報モラル教育にも力を注ぎ、一人一人の生徒を大切に教育の充実に向けている。</p>
13	熊本県立北稜高等学校 江島 智和	<p>●造園教育に優れた指導力</p> <p>造園教育の指導力向上のため、教員産業現地研修、熊本県職業教育担当教員先端技術研修、県立学校教員長期社会体験研修(造園)をはじめ様々な研修に参加しスキルアップに努めてきた。造園教育を通しての指導力も高く、生徒の実習指導に大いに貢献しており、他の教職員の模範となっている。また、指導した生徒が知識や技術を競う大会等で優秀な成績をあげており、造園業界にも多くの優れた人材を輩出している。</p>
14	熊本県立玉名工業高等学校 三原 大典	<p>●部活動(レスリング)に優れた指導力</p> <p>保健体育教諭として長年、レスリング部のコーチ、監督、顧問として情熱を傾け指導を行ってきた結果、国体個人3連覇や本校を全国大会準優勝3回に導き、本県及び本校の名声を全国に広めた。その卓越した指導力には定評があり、日本オリンピック委員会強化スタッフや熊本県体育協会強化専門委員を務めるなど、指導者の第一人者としての評価も高い。また、担任として生徒に向き合い真摯な姿勢で丁寧に指導する姿は、模範となるものであり、熊本県高等学校体育連盟レスリング専門委員長を務めるなど、熊本県の部活動指導における代表的な教師でもある。</p>

No.	学校名 氏名	功績の概要
15	熊本県立御船高等学校 古閑 雄介	<p>●部活動(書道部)において優れた指導力 書道部において専門性を生かし、個々に応じた指導を適切に行い、生徒が主体的に高い技術に挑戦している。技術面の指導のみならず、掃除や挨拶などの礼節を重んじ、高い意識を持って取り組むよう指導し、豊かな人間性・創造性を形成する教育を実践している。指導した生徒が全国高等学校総合文化祭で文部科学大臣賞を受賞するなど、数々の優秀な成績をあげており、書道部全員で実演する書道パフォーマンスは華麗で力強く、多方面より出演依頼を受けている。また、本県の高文連書道専門委員長を6年務め、高校書道の中核を担っている。</p>
16	熊本県立熊本西高等学校 錦戸 真介	<p>●生徒指導における優れた指導力 学年主任として卓越したリーダーシップを発揮し、学年のみならず学校全体を牽引している。生徒指導はもちろん、教科指導や進路指導等の幅広い領域で豊富な経験と優れた指導力を備えており、誠実に愛情と情熱を持って生徒と接する姿勢から、生徒、保護者、教職員の信頼も厚く、毎年チームワークの取れた学年集団にまとめあげ、非常に効果的な教育活動を実践している。また、百人一首競技かるた部の顧問として、卒業生等との協力体制を築き、人間形成を基にした部活動指導を実践し、全国選手権大会や全国総文祭への出場を果たすなどの成果をあげている。</p>
17	熊本県立矢部高等学校 米村 龍一	<p>●地域や大学との協働により生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現 林業の学習指導において、最新の林業技術やICTを導入し、地域資源を活用した実験・実習や課題研究などを通じて生徒に達成感や自己肯定感を持たせ、自主性を引き出す授業を展開している。中でも地域との連携や大学との共同研究は、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促し、林業の学びが地域の活性化や学校の活性化につながっている。また、生徒自身が八朔祭の大造り物を製作したり、石橋など地域の魅力を再発見し、インターネット等を活用して発信したりすることで、地域への誇りや郷土愛を持つことにもつながっている。</p>
18	熊本県立水俣高等学校 山中 宏之	<p>●工業科職員としての専門性を活かした高い技術力と優れた指導力 スーパーグローバルハイスクール事業の指定を受け、担当している機械科では「低炭素社会構築のものづくり研究」として電動バイクの製作を指導した。ものづくり教育において、常日頃から向上心に溢れ、新しい技術に興味関心を持ち、自らの研究につなげるとともに、その成果を生徒に還元しており、本校はもとより熊本県内の工業科職員をリードする存在となっている。</p>
19	熊本県立牛深高等学校 古川 小百合	<p>●ICT能力を活用したバーチャル体験入学を実現 コロナ禍の中で初の中学生体験入学のバーチャル化を企画・実現した。ICT環境が不十分な中、全教職員が一つになって作成を協力し、生徒がPRチラシの作成を行ったことで、学校の活性化にもつながっている。日頃から県内唯一の普通総合学科の運営部長として、特色ある教育活動をICT機器を駆使し広報するとともに、学習成果発表会の責任者として活躍している。新型コロナウイルス感染防止での臨時休業中、アプリによる全校生徒の健康状況の把握や全教職員に対するオンライン授業の開設、QRコードを使用した教材配付などを企画・実現し、臨時休業中の学力保障にも貢献している。</p>
20	熊本県立熊本支援学校 竹本 正己	<p>●特別支援教育コーディネーターとしての優れた指導力 特別支援教育コーディネーターとして、平成30年度から導入された「熊本県立高等学校における通級における指導」において、近隣高等学校を準備段階からサポートし、生徒の実態、特別支援教育に係る学校方針を踏まえ、校内体制づくり、自立活動を中心とした指導の充実に貢献してきた。3年余りにわたる支援により高等学校内での支援が充実してきており、主体的、自律的な特別支援教育への取組に側面から支援を続けている。また、本校では、チームでの対応をコーディネートし、職員の専門性を高める研修も実施している。</p>

【教職員組織】

No.	教職員組織名	功績の概要
1	玉名市立玉名町 小学校教職員一 同	<p>●組織的な学力向上対策の継続・充実</p> <p>平成27年から算数科の研究実践を積み重ね、平成30年度から2年間、玉名市教育委員会の学力充実研究推進校として、研究に取り組んだ。全ての研究授業において、事前検討会・検証授業の実施、研究推進委員会での学習指導案検討、模擬授業形式による全職員での事前研究会や外部指導者による事後研究会の実施など、チームでの取組で授業者の負担を軽減し、教職員の授業改善につなげている。併せて、授業と並行した教室掲示・廊下掲示などの環境整備、ノート指導、家庭学習の手引き活用、過去問題実施月間やチャレンジタイム(学力充実)の実施等、横軸として学年部の取組、縦軸としてプロジェクトによる取組により組織的な日常の指導を続けており、児童の学力が向上している。</p>
2	菊陽町学校事務セ ンター (菊陽中部小学校他7 校事務職員)	<p>●組織的、積極的な連携による学校業務の改善</p> <p>6年間『ONE TEAM』精神で組織力を活かした業務改善に取り組んできた。経験年数で校内事務に相違が生じないよう、積極的なセンター研修を実施し、実務知識の平準化や財務面での事務職員の能力向上に努めた。学校単位の業務から「菊陽町は一つ」という職員の意識改革を図り、町教育委員会からの支援を受けながら効率性、経済性の向上を目指し、就学援助費管理発送事務や教師用教科書・指導書の町内管理、給食費徴収に関する統一性など数々の取組を実施した。また、全教職員を対象にした月間誌『Jimdas』の配布による啓発活動や学校徴収金業務のサポートも継続して実施している。</p>
3	高森町教育研究 会ふるさと教育部 会 (高森中央小学校 高森中学校 高森東学園義務教育 学校)	<p>●「高森ふるさと学」による地域学習の充実</p> <p>高森町新教育プランの重点施策として掲げられている「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育・ふるさと教育」の充実を目指し活動している。平成25年度から文部科学省の指定を受け「高森ふるさと学」を創設し、総合的な学習の時間や教科指導、道徳等の時間で小学校社会科副読本「私たちの高森町」(令和元年度改訂)や道徳教育用郷土資料「高森の心」(小学校低・中・高学年、中学校用の4編)を活用し、地域住民を講師として招くなどにより、郷土の魅力を知り誇りを持つ子供を育てることに貢献している。また、高森東学園で取り組んだ「起業体験事業」を部会を中心に全学校に広げ、先輩の講話や復興プロジェクト体験などの取組を行っている他、教職員が地域住民と触れ合う地域巡検研修や遠隔システムでの研修会を開催し、「高森ふるさと学」への実践意欲の向上に努めている。</p>
4	上天草市立松島 中学校教職員一 同	<p>●組織的な防災教育に関する取組</p> <p>平成30年度から2年間、熊本県教育委員会の指定を受け、防災教育研究推進校として研究に取り組んできた。防災意識を高めるための授業改善や、生徒の主体性を育むための生徒会による防災学習や避難訓練、家庭・地域との絆を深めるための家族防災会議や防災教育通信発行など、組織的・計画的な実践を行った。令和元年には、これまでの取組の一端を研究発表会という形で県下に普及・啓発し、参加者等からは、高い評価を受けた。研究指定事業が終わった現在も、組織的・計画的に研究の成果を生かした活動が継続されており、教員、生徒とも防災教育に関する意識が高い。</p>
5	熊本県立水俣高 等学校教職員一 同	<p>●環境問題を柱にグローバルリーダーを育成</p> <p>本校は、水俣市に位置する学校として、これまでも環境教育に積極的に取り組んできた。平成28年度から5年間文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール事業」の指定を受け、『環境首都水俣』に学ぶ水高生から世界への『いのち』の発信」をテーマに、環境教育を通して水俣で学んだことを背景に、世界に提言し、議論ができるグローバルリーダーの育成を目指して取り組んでいる。水俣病に関して学習し、世界の環境問題について調査研究を行い課題研究で発展を図る水俣ACTⅠや、大学、各研究機関と連携して海外との交流をしながら英語力を向上させる水俣ACTⅡなどにより、各種コンテストでの入賞や英語検定合格者の増加に結びついている。その実績が認められ、令和元年度に「第34回時事通信社『教育奨励賞』優秀賞」を受賞した。</p>